

nichicon

取扱説明書

EVパワー・ステーション

VCG-663CN3 (充放電コネクタ 3.7m ケーブル品)

VCG-663CN7 (充放電コネクタ 7.5m ケーブル品)

このたびは、EVパワー・ステーションをお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みいただいたうえで、正しくお使いください。
また、保証書とともに大切に保管してください。

TP1950SMNLO1003

もくじ

EV パワー・ステーション (EVPS) の特徴	5
EV パワー・ステーションに備えられている機能	5
運転機能のご紹介	5
安全のために必ずお守りください	6
取り扱い上のお願ひ	9
各部の名前と働き	11
本体	11
充放電コネクタ	12
操作パネル.....	12
12V 電源ケーブル	13
充放電コネクタ緊急離脱工具 (取扱説明書付).....	13
車両と接続 / 取り外しをする	14
車両に接続する	14
車両から取り外す	15
充電 / 放電をする	16
充電する前に.....	16
充電を開始する	16
充電を停止する	16
放電する前に.....	17
放電を開始する	17
放電を停止する	17
タイマー予約操作をする	18
本体でタイマーを設定する	18
タイマー時間の上限値	20
タイマー運転中に運転を停止する	20
タイマー設定時間中に動作を再開する	20
タイマー予約の優先度	21
グリーンモードとは	21
グリーンモードタイマーを設定する	21

停電時に使用する（停電時自立運転）.....22

車両への充電中に停電したら.....	22
車両からの放電中に停電したら.....	22
待機中に停電したら.....	22
停電時自立運転する前に.....	22
停電時に放電を開始する.....	23
停電時に放電を停止する.....	23
停電時に使用する場合の注意事項.....	24
待機中に停電が復旧したら.....	24
車両から放電中に停電が復旧したら.....	24

設定する.....25

本体で設定する.....	25
タイマー充電設定（設定番号：A、A1、A2）.....	25
グリーンモード設定（設定番号：b、b1、b2）.....	25
タイマー放電1設定（設定番号：c、c1、c2）.....	25
タイマー放電2設定（設定番号：d、d1、d2）.....	25
充電停止充電率設定（設定番号：01）.....	26
放電停止充電率設定（設定番号：02）.....	26
本体時刻設定（設定番号：03）.....	26
PV 余剰充電とは.....	26
PV 余剰充電設定（設定番号：04）.....	26
復電時放電継続設定（設定番号：05）.....	26

データを表示する.....27

本体で表示する.....	27
--------------	----

その他の操作.....28

電源を入れる.....	28
電源を切る.....	28
非常停止する.....	28
非常停止から復帰する.....	28
システムリセットする.....	28

車種ごとの注意事項	29
日産自動車（株）LEAF, e-NV200	29
三菱自動車工業（株）i-MiEV, minicab-MiEV, minicab-MiEV Track, アウトランダー PHEV	29
こんなときは	30
コネクタがロックできない.....	30
運転しない / できない	30
ボタンを押しても反応が無い.....	30
ボタンを押すとすべてのLEDが2回短く点滅する.....	30
運転開始するがすぐに停止する.....	30
しばらくすると停止している.....	31
充電電力が少ない.....	31
放電電力が少ない.....	31
放電中に充電する	31
グリーンモードで電池残量が増えない / 減る.....	31
ブレーカが頻繁に落ちる	31
契約電力を変更する場合	31
100%まで充電できない	32
車両が満充電後、すぐに放電できない	32
充放電コネクタが取り外せなくなった場合.....	32
エラーコードが表示された.....	33
保証とアフターサービス	34
保証について.....	34
アフターサービスについて.....	34
製品に関するお問い合わせ.....	34
機器仕様	35
本体仕様.....	35
機器外観図.....	36
本体.....	36

EV パワー・ステーション (EVPS) の特徴

- 通常時には電力会社からの電力を車両に充電し、電力使用量の多い時間帯には車両に蓄えられた電力を取り出し、家庭負荷に供給することでピークカットが可能となります。
- 災害時などの停電の際には車両に蓄えられた電力を取り出し、家庭に供給することが可能となります。

EV パワー・ステーションに備えられている機能

- 本体スイッチの操作で、お好みの時間帯に充電、放電、停止、コネクタロック操作が行えます。
- タイマー設定機能：毎日決まった時間に充放電動作を行える、タイマー設定機能を有します。
- 停電時自立運転動作：停電時に車両に接続し、車両に蓄えられた電力を取り出し、家庭に供給する機能を有します。
- 太陽光発電パワコンと連携動作させることで、買電せずに余剰分を車両に充電のみさせる、グリーンモード機能を有します。(タイマー設定時間内に限られます)
- 同様に太陽光発電パワコンと連携動作をさせることで、太陽光発電余剰時には車両に充電させ、不足時には車両から放電させる、PV 余剰充電機能を有します。

運転機能のご紹介

充電機能 (16 ページ)

太陽光発電の電力または系統からの電力を車両に充電させる機能です。

放電機能 (PV 余剰充電機能 ON) (17 ページ、26 ページ)

車両に蓄えられた電力を取り出し、家庭に放電 (給電) させる機能です。

太陽光発電 (PV) がある場合、太陽光発電の余剰電力※が発生したときに、売電せずに車両に充電するように自動的に切り替わります。(シームレス制御)

放電機能 (PV 余剰充電機能 OFF) (17 ページ)

車両に蓄えられた電力を取り出し、家庭に放電 (給電) させる機能です。

太陽光発電 (PV) がある場合、太陽光発電の余剰電力※が発生したときに、余剰電力を電力系統に売電します。

タイマー充電機能 (18 ページ)

タイマーを設定すると毎日設定した時間に充電の開始 / 停止を行います。

タイマー放電機能 (18 ページ)

タイマーを設定すると毎日設定した時間に放電の開始 / 停止を行います。

グリーンモード (21 ページ)

タイマー設定の時間範囲内で、太陽光発電の余剰電力が大きいときに車両に充電を行います。

車両の電池残量を減らしたくない時 (放電 (給電) しない) におすすめです。

停電時自立運転機能 (22 ページ)

停電時に、車両に蓄えられた電力を取り出し、家庭に供給します。



※余剰電力 = PV 発電電力 - 家庭消費電力

安全のために必ずお守りください

安全上のご注意

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ずお守りください。
- お読みになられた後も、ご利用される方がいつでも参照できるところに必ず保管してください。

ここに示した事項は、△警告 △注意に区分しています。

 警告	取り扱いを誤った場合、使用者が死亡、または重傷を負う可能性が想定される事項。
 注意	取り扱いを誤った場合、使用者が重傷を負う危険が想定される事項、および物的損害のみの発生が想定される事項。

絵表示については次のような意味があります。

	* 必ずアース線を接続 安全アース端子付きの機器の場合、使用者に必ずアース線を接続して接地をとるように指示する表示		* 感電注意 特定の条件において、感電の可能性を注意する通告
	* 一般的な禁止 特定しない一般的な禁止の通告		* 分解禁止 機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性がある場合の禁止の通告
	* 一般的な指示 特定しない一般的な使用者の行為を指示する表示		

警告



ペースメーカー・ICD をご使用の方へ

充電中、放電中は
近づかないでください

ペースメーカーおよびICDの
動作に一時的な影響を与える
場合があります



取付工事・修理・移動・再設置・破棄はお買い上げ
の販売会社に依頼する
不備があった場合、感電や火災のおそれがあります。



人命に直接かかわる医療機器などは接続しない
身体の安全を損ねる場合があります。



分解・改造しない
感電や障害を負うおそれがあります。



蹴ったりして強い衝撃を与えない
変形して短絡し、発熱・発火・破裂・火災のおそれ
があります。



子供を近づけない
感電・やけど・火災のおそれがあります。



吸排気口などに物（金属、紙、水など）を差し込ん
だり中に入れたりしない
火災・感電・故障の原因となります。

警告



本製品のフロントパネルなど機器を開けない
内部に電圧の高い部分があります。感電のおそれがあります。



お子様に操作させない
感電、やけど、火災のおそれがあります。



本製品の上に乗ったり、座ったり、コネクタホルダにぶらさがったり、物を置かない
機器が変形・脱落し、けが・感電・故障のおそれがあります。



充放電コネクタの金属接点に触れたり、なめたりしない
高い電圧が加わり感電のおそれがあります。



充放電ケーブルを踏む、上に物を置く、ひきするなどしない
ケーブルが損傷し、火災や感電のおそれがあります。



充放電コネクタを引っ張らない、無理な力を加えない
装置が破損して、感電・故障の原因になります。



温泉・火山等、腐食性ガスがかかる場所には設置しない
装置が破損する原因となります。



本製品の近くに可燃性ガスや引火物を近くに置かない (60cm 以内)
電気部品のスパークで漏れたガスや引火物などに引火するおそれがあります。



煙が出る、変なにおいがする場合は、本製品には近づかず、分電盤の本製品用漏電ブレーカを「OFF」にする
そのまま使用すると、火災の原因となります。すみやかに販売会社にご連絡ください。



充放電コネクタを車両に接続する場合は、ぬれないようにする
感電・故障のおそれがあります。



充放電コネクタをぬれた手で触らない
感電のおそれがあります。



充放電コネクタを落下させない
装置が破損して感電や火災の原因となります。



落雷のおそれがあるときや、雷が鳴り出したときは使用しない
落雷による感電などのおそれがあります。

注意



アース工事を行う (C 種接地工事 接地抵抗 500 Ω 以内)
アースが不完全な場合、感電のおそれがあります。アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。
アース工事については必ずお買い上げの販売会社にご相談ください。



シンナー、ベンジン、アルコールなどの薬品を含んだ布でふかない
製品の変色原因となります。



本システムの近くでテレビやラジオ、無線などを使用しない
テレビの画面が乱れる、ラジオ、無線に雑音が入ることあります。
受信している電波の弱い場所では、電磁障害を受けるおそれがあります。



吸排気口を塞いだり吸排気口付近に荷物を置いたりしない
温度上昇により本体が自動停止する可能性があります。



本製品の近くで殺虫剤などの可燃性ガスを使用しない
引火し、やけど・火災の原因となることがあります。



動作中に車両を移動させない
装置が破損して感電の原因となります。



夏季の高温時や冬季の低温時に、充放電コネクタ及び本体に素手でさわらない
火傷の原因となります。



廃棄処理・リサイクルについて
使用后、すみやかに廃棄してください。廃棄する場合は、お買い上げの販売会社にお問い合わせください。
廃棄費用はお客様負担となります。



本システムや太陽光発電パネルの配線などから発生する電氣的雑音が、近隣のアマチュア無線通信やラジオなどの受信に影響を与えることがあります。



エラーコードが連続的に表示されている状態のまま放置しない

⚠ 注意



落雪などで本体の吸排気口が塞がらないよう設置状況により防雪・雪囲いなどの処置を行う
温度上昇により本体が自動停止する可能性があります。



本体の周りに毛布などを置かないようにし、本体の周りにスペースを確保する
本体が高温になり、動作が停止する、または寿命が短くなる可能性があります。



車両に接続しない場合、充放電コネクタはコネクタホルダに正しく格納する
放置すると、感電、火災、ケガの原因になります。また、車両が充放電コネクタに乗り上げてコネクタを破壊するおそれがあります。



機器に異常、破損、腐食、錆、ネジゆるみ、吸排気口ふさぎ、スイッチ破損、アンカーボルトのゆるみ、等がないか日常点検をする
装置の故障の原因となります。



充放電コネクタケーブル、12V 電源ケーブルに引っ掛からないようにする
転倒、けがの原因となります。



地震により転倒したり水没した場合は、不用意に近づいたり、触らないで、点検を受けてください
電気配線に異常がある場合は、火災・感電・故障の原因となります。



充放電コネクタケーブル、12V 電源ケーブルに、ぶら下がらない
装置が破損して感電や火災の原因となります。



装置を高圧洗浄機で洗浄しない
感電や故障の原因となります。

取り扱い上のお願い

共通

■次のような場所には取り付けない

- 標高 2000 m より高いところ
 - 岩礁隣接地域
 - 塩害地域
 - 揮発性、可燃性、腐食性およびその他の有害ガスのあるところ
 - 振動、衝撃の影響が大きいところ
 - 油蒸気のあるところ
 - 浸水のおそれがあるところ
 - 電界の影響が大きいところ
 - 風通しが悪いところ
 - 結露および氷結のあるところ
- 次の温度範囲以外のところでは、動作を停止することがあります。
温度：- 20℃～+ 40℃
(温度範囲に戻ると、自動復帰します)
 - 建物の屋根等から雪庇、つらら等が落下するところ
 - 積雪がある地域
下記の対策を行うことで、取り付けが可能となります。
 - ・雪囲いや、雪が積もったり、吹き込んだりしない場所への設置等、積雪への対応を行ってください。
 - ・雪囲いを設置する場合は、本体の周りにスペースを確保してください。
 - 特に、本体の吸排気口を塞がないようにしてください。

塩害の影響による設置可否について

本体が設置可能な場所を下表のように定めています。

本体は、「沖縄・離島以外の地域、かつ、塩害以外の場所」であれば設置可能です。

地域による区分 塩害レベルによる区分	沖縄・離島	沖縄・離島以外の地域
塩害	×	×
塩害以外	×	○

○：設置可、×：設置不可

地域による区分について

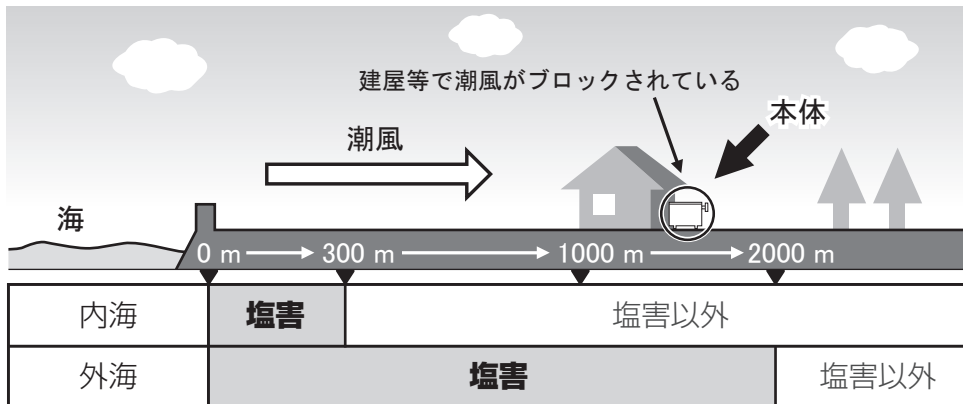
本書は、地域を「沖縄・離島」と「沖縄・離島以外の地域」で区分しています。

※離島：本土から離れ、四方を海で囲まれている島で内海に浮かぶ島は除く。(淡路島は離島から除く)

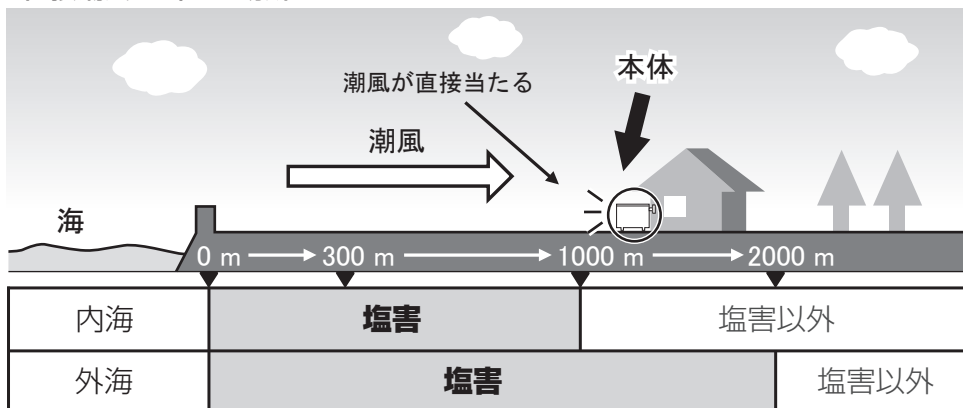
塩害レベルによる区分について

本書は、塩害レベルを下記のように「塩害」と「塩害以外」で区分しています。

● 直接潮風は当たらないが、その雰囲気内にある場所



● 直接潮風が当たる場所



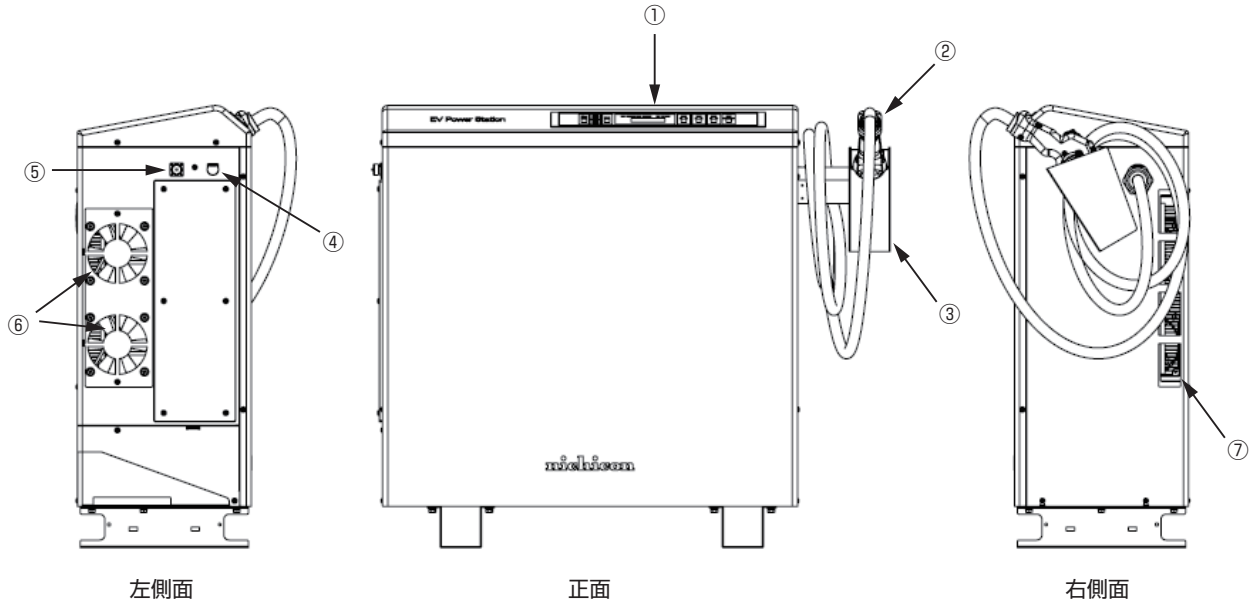
※内海：瀬戸内海、東京湾、伊勢湾

外海：内海以外の海

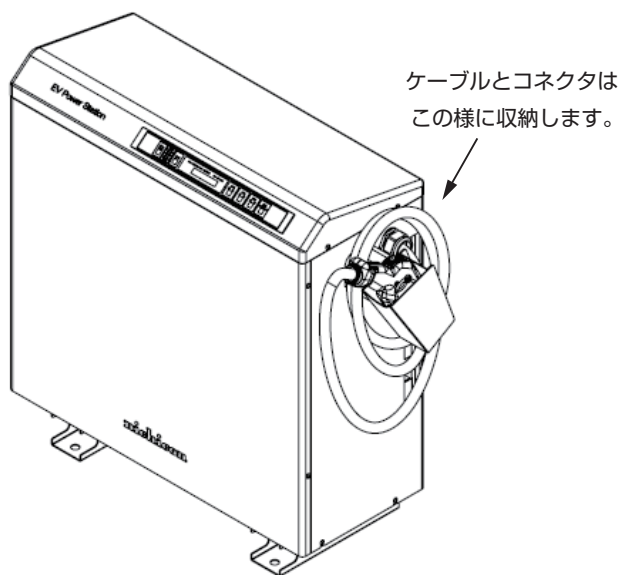
各部の名前と働き

本体

車両への充電、家庭への放電の切り替えを制御します。



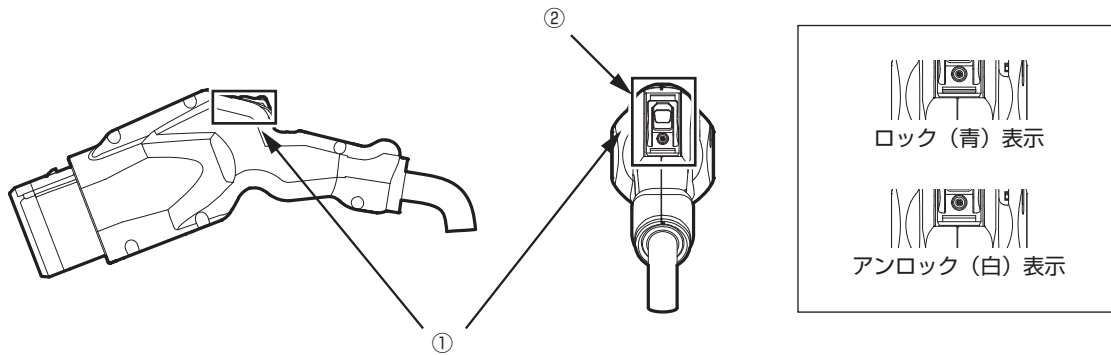
①	操作パネル	充電・放電の操作や各動作モードの設定を行います。
②	充放電コネクタ（ケーブル含む）	本体と車両を接続します。
③	コネクタホルダ	コネクタを収納します。
④	非常停止ボタン	充電・放電動作を非常停止させます。
⑤	12V IN	停電時に車両から本システムを起動する場合に必要な 12V 電源ケーブルの接続口です。
⑥	排気口	本体内部を冷却した空気を排出する口です。
⑦	吸気口	本体内部を冷却する空気を取り入れる口です。



ケーブル、コネクタ格納推奨方法

充放電コネクタ

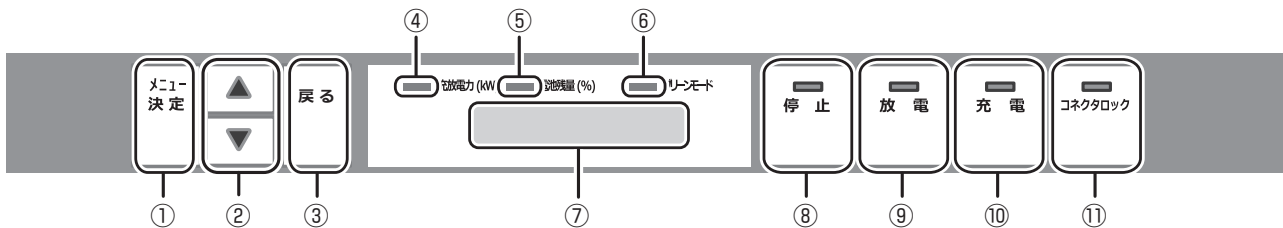
車両の急速充電口に接続するコネクタです。このコネクタを介して車両と電力のやり取り（充電・放電）を行います。



ロック (青) / アンロック (白) 表示

①	リリースボタン	ラッチの解除をします。
②	ロック表示	コネクタがロックされているかを表示します。

操作パネル



①	[メニュー / 決定] ボタン	設定画面の表示、設定の決定を行います。
②	[▲][▼] ボタン	設定の選択を行います。
③	[戻る] ボタン	現在の設定から戻ります。
④	充放電力 LED	充電電力・放電電力を表示している際に点灯します。
⑤	電池残量 LED	車両の電池残量を表示している際に点灯します。
⑥	グリーンモード LED	PV が発電した電力で充電している際に点灯します。
⑦	表示部	操作状況やデータの表示を行います。
⑧	[停止] ボタン	運転状態の停止を行います。
⑨	[放電] ボタン	放電操作を行います。
⑩	[充電] ボタン	充電操作を行います。
⑪	[コネクタロック] ボタン	コネクタのロックやロック解除を行います。

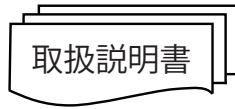
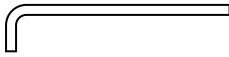
12V 電源ケーブル

停電時に車両と本体間を接続するケーブルです。



充放電コネクタ緊急離脱工具（取扱説明書付）

充放電コネクタが取り外せなくなった緊急時に使用します。



車両と接続 / 取り外しをする

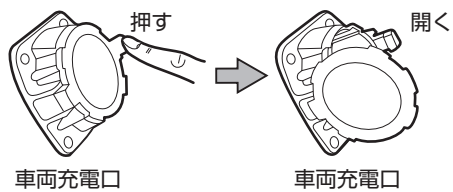
車両との接続は、車両が停止した状態で行ってください。

車両はパーキング状態で、メーターパネルが消えた状態（POWER OFF*）にしてください。

※車種により名称が異なる場合があります。車両の取扱説明書を参照ください。

車両に接続する

1 車両を準備する

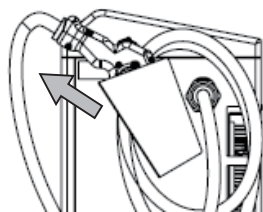


車両のシフトをパーキング（P位置）にします。
「POWER OFF」にして車両の充電口を開きます。

メモ

車両毎に操作が異なるため、車両の取扱説明書をご確認ください。

2 コネクタホルダからコネクタを取り外す



コネクタをコネクタホルダから引き抜いてください。

3 コネクタを車両に接続する



コネクタを車両充電口の奥まで押し込みます。
「カチッ!」と音がするまで押し込んでください。

メモ

車両充電口にコネクタをしっかりと押し込んで抜けないことを確認してください。

4 コネクタをロックする



[コネクタロック] ボタンを押します。
コネクタロック LED が点滅し、ロックが完了すると
コネクタロック LED と停止 LED が点灯します。
コネクタが車両にロックされますので操作は終了です。

メモ

- コネクタが車両に接続されていない状態では、コネクタはロックできません。
- コネクタロック中は、無理にコネクタを取り外さないでください。
- EV パワー・ステーション本体のコネクタホルダにはロックできません。
- コネクタロック解除を行った直後にロックを行う場合、ロックするまで 20 秒程度かかる場合があります。

車両から取り外す

1 コネクタのロックを解除する

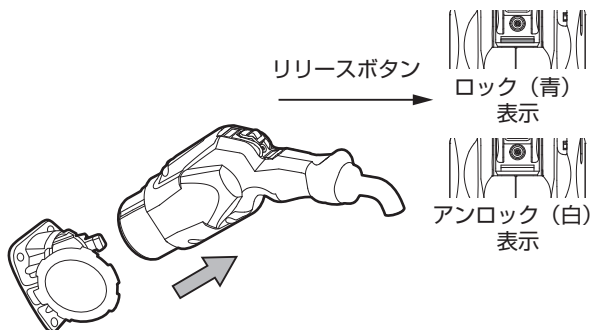


[コネクタロック] ボタンを押します。
コネクタロック LED が点滅し、ロック解除されるとコネクタロック LED と停止 LED が消灯します。

メモ

充電・放電動作中にコネクタロックを解除すると充電・放電動作は停止します。

2 車両からコネクタを取り外す



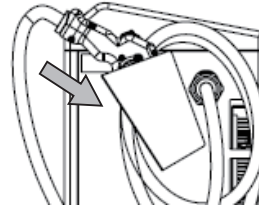
車両充電口

ロック / アンロック表示が青になっていないことを確認します。
コネクタの「リリース」ボタンを押しながら、コネクタを引き抜きます。

メモ

- 充電・放電中はコネクタを外さないでください。
- コネクタを外す場合は、充電・放電動作を停止し、EV パワー・ステーションが停止したことを確認した後に行ってください。
- リリースボタンが押せない場合は、本ページ上部の「1. コネクタのロックを解除する」を行ってください。また、コネクタが外れないときは、「こんなときは」の「緊急離脱について」を参照してください。

3 EV パワー・ステーションにコネクタを収納する



メモ

不使用時は、雨水やほこりなどを避けるためにも、コネクタをコネクタホルダに収納して保管してください。

充電／放電をする

お好みのタイミングで車両への充電や、車両からの放電を行うことができます。

充電する前に

- 放電非対応車両はお使いになれません。
- EV パワー・ステーションの倍速充電機能を十分お使いいただくためには、最大で 6kW の電力が必要です。その他ご家庭内でご使用になる電気機器も含めた電力契約が必要です。
- 充電時に系統電力を計測し、設定した契約電力値以下になるように充電電力を制御します（インテリジェント充電制御）。充電時にご家庭の使用電力が多いと、充電時間が長くなることがあります。
- 通常は車両が推奨するバッテリー容量か、充電設定のどちらか低い方で充電します。充電設定で 100% に設定しても、車両によっては満充電前に充電停止する場合があります。
- 充電停止充電率の設定を行ってください。(26 ページ)

充電を開始する

1 コネクタを接続する

コネクタを車両に接続します。(14 ページ)
コネクタを接続し、コネクタロックボタンを押します。

2 充電する



[充電] ボタンを押します。
充電 LED が点滅し、本体と車両の準備が完了した後、充電 LED が点灯し充電を開始します。

メモ

- コネクタロックがされていなくても、充電ボタンを押すと、ロック、充電動作に移行します。
- ボタンを押してから実際に充電するまで数十秒かかる場合があります。
- 放電中に [充電] ボタンを押すと、自動的に充電動作に切り替わります。
- [充電] ボタンを押した時に、すべての LED が 2 回点滅するときは充電できない状態です。

充電を停止する

1 充電を停止する



[停止] ボタンをタッチします。
停止 LED が点滅し、停止処理が完了すると停止 LED が点灯します。

メモ

- 充電停止充電率に達するか、車両が定めた充電率に達した時には自動停止します。
- 充電動作が停止しても、コネクタはロックされた状態のままとなります。
- コネクタを取り外す際は、「車両から取り外す」(15 ページ)を参考にロックの解除を行ってください。

放電する前に

- 放電には車両が放電対応車両である必要があります。車両販売店にお問い合わせください。
- 放電停止充電率の設定を行ってください。(26 ページ)

放電を開始する

1 コネクタを接続する

コネクタを車両に接続します。(14 ページ)
コネクタを接続し、コネクタロックボタンを押します。

2 放電を開始する



[放電] ボタンをタッチします。
放電 LED が点滅し、本体と車両の準備が完了した後、
放電 LED が点灯し放電を開始します。

メモ

- コネクタロックがされていなくても、放電ボタンを押すとコネクタロックし、放電動作に移行します。
- ボタンを押してから放電開始されるまで数十秒かかる場合があります。
- 充電中に [放電] を押すと、自動的に放電動作に切り替わります。
- [放電] ボタンを押した時に、すべての LED が 2 回点滅するときは放電できない状態です。

放電を停止する

1 放電を停止する



[停止] ボタンを押します。
停止 LED が点滅し、停止処理が完了すると停止 LED
が点灯します。

メモ

- 放電停止充電率に達するか、車両が定めた充電率に達した時には自動停止します。
- 放電動作が停止しても、コネクタはロックされた状態のままとなります。
- コネクタを取り外す際は、「車両から取り外す」(15 ページ)を参考にロックの解除を行ってください。

タイマー予約操作をする

タイマーを設定すると毎日設定した時間に、充電の開始／停止、放電の開始／停止を行います。タイマーは停電、瞬停などであっても停電復旧が確定したらタイマー時間内であれば自動的に再開するので、夜間の充電など定期的に行う運転はタイマーで行うようにしてください。

以下の場合、**タイマー運転は開始されませんのでご注意ください。**

- タイマー開始時刻に、手で充電動作または放電動作が行われている。
- タイマー開始時刻に、コネクタが車両に接続されていない。
- タイマー開始時刻に、停電している。

本体でタイマーを設定する

設定時間に自動的に運転を開始します。

■ タイマー設定の構成

1つのタイマーにつき3つの設定項目があります。

設定項目	内容
on/off	タイマーの有効／無効を設定します。
開始時刻	タイマーの開始時刻を設定します。
終了時刻	タイマーの終了時刻を設定します。

以下に設定例を示します。

例 1

設定例	内容
on/off : on (有効)	10:30 ~ 15:00 までタイマー運転
開始時刻 : 10:30	
終了時刻 : 15:00	

例 2

設定例	内容
on/off : on (有効)	22:30 ~ (翌) 6:00 までタイマー運転
開始時刻 : 22:30	
終了時刻 : 6:00	

例 3

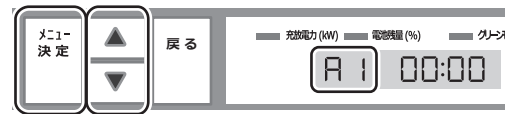
設定例	内容
on/off : off (無効)	タイマー運転は行わない
開始時刻 : 10:30	
終了時刻 : 15:00	

1 設定画面に切り替える



[メニュー / 決定] ボタンをタッチし、表示部に「00」を表示します。

2 タイマー開始設定画面に切り替える



[▲][▼] ボタンで表示部に変更したい「設定番号」を表示し [メニュー / 決定] ボタンをタッチします。各タイマーの「設定番号」は設定番号一覧表を参照ください。

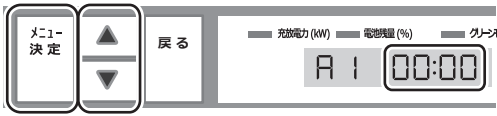
設定番号一覧表

設定番号	タイマー種類	設定項目
A	充電	on/off
A1		開始時刻
A2		終了時刻
b	グリーンモード	on/off
b1		開始時刻
b2		終了時刻
c	放電 1	on/off
c1		開始時刻
c2		終了時刻
d	放電 2	on/off
d1		開始時刻
d2		終了時刻

ここでは一例として、タイマー充電の設定を示します。

次ページへ続く

3 時刻を設定する

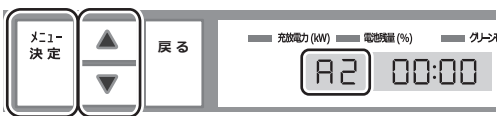


時刻が点滅している状態で [▲][▼] ボタンで設定したい時刻に合わせ、[メニュー/決定] ボタンをタッチします。

メモ

- 10分単位で変更できます。
- [▲][▼] を長押しすると、1時間単位で変更できます。

4 タイマー停止設定画面に切り替える



[▲][▼] ボタンで表示部に「A2」を表示し [メニュー/決定] ボタンをタッチします。

5 時刻を設定する

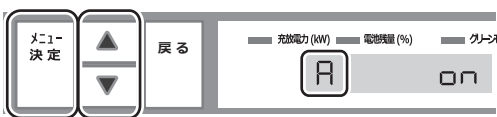


時刻が点滅している状態で [▲][▼] ボタンで設定したい時刻に合わせ、[メニュー/決定] ボタンをタッチします。

メモ

- 10分単位で変更できます。
- [▲][▼] を長押しすると、1時間単位で変更できます。

6 タイマーを有効にする



[▲][▼] ボタンで表示部に「A」を表示し [メニュー/決定] ボタンをタッチします。



点滅している状態で [▲][▼] ボタンで「ON」を表示させ、[メニュー/決定] ボタンをタッチします。

メモ

- タイマー充電の運転を無効にする場合は、同一の手順で OFF にしてください。
- 各タイマーの設定時間が重複している場合、タイマー充電 > タイマー放電 1 > タイマー放電 2 > グリーンモードタイマーの順で優先されます。
- [メニュー/決定] ボタンをタッチしないと、設定した時刻と ON/OFF は保存されません。
- 日付をまたいでの設定も可能です。

7 コネクタを接続する

コネクタを車両に接続します。(14 ページ)

メモ

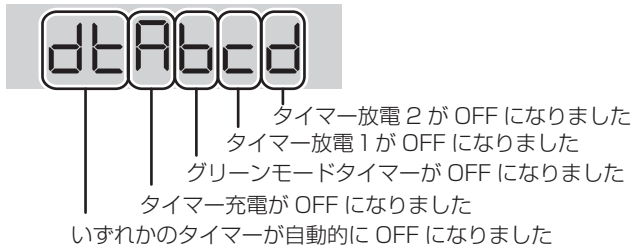
- コネクタは、設定した開始時刻までに車両に接続しておいてください。
- 車両に接続後、コネクタがロックされていない場合は開始時刻に自動的にロックします。
- 運転中の場合は設定ができませんので、必ず停止状態にしてください。

タイマー時間の上限値

タイマー予約時間には 23 時間（車両によっては 12 時間）の上限値があり、上限値を超えるようなタイマーの設定をすることができません。

上限値が 12 時間の車両を接続したときに、上限値を超えるようなタイマー設定を行っていた場合は、グリーンモードタイマー、タイマー放電 2、タイマー放電 1、タイマー充電の順番に上限値以下になるまで自動的にタイマー設定が OFF になります。

タイマー設定が自動的に OFF になった場合は表示部に以下の表示が出ます。この表示は、充放電やコネクタロックなどの操作を行うと消すことができます。



タイマー運転中に運転を停止する

タイマー運転中に運転を停止する場合は、手動操作による停止をしてください。

1 タイマー運転を停止する



[停止] ボタンをタッチします。

停止 LED が点滅し、停止処理が完了すると停止 LED が点灯します。

メモ

- 充放電動作が停止しても、コネクタはロックされた状態のままとなります。
- コネクタを取り外す際は、「車両から取り外す」(15 ページ)を参考にロックの解除を行ってください。

タイマー設定時間中に動作を再開する

タイマー運転を手動で停止した場合、タイマー設定時間であれば以下の手順によってタイマー動作を再開させることができます。

1 コネクタのロックを解除する

コネクタがロックされている場合、[コネクタロック] ボタンをタッチして、コネクタロックを解除します。(15 ページ)

2 コネクタをロックする

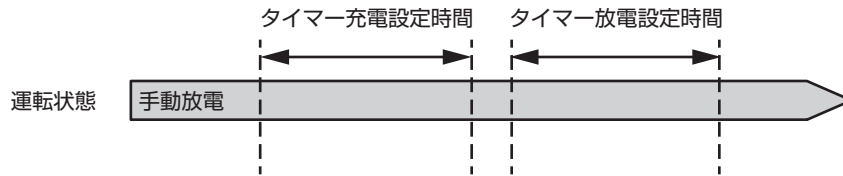
[コネクタロック] ボタンをタッチして、コネクタロックを車両にロックします。(14 ページ)

コネクタロックが完了すると、自動的にタイマー動作が再開します。

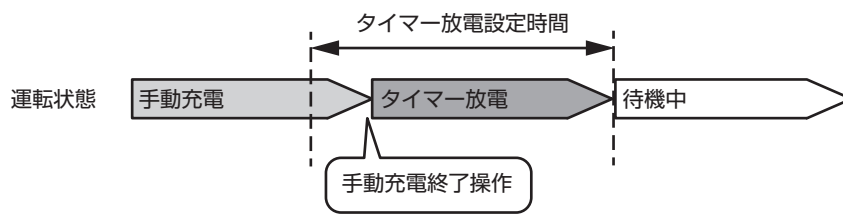
タイマー予約の優先度

EV パワー・ステーションは手動操作を優先して動作します。

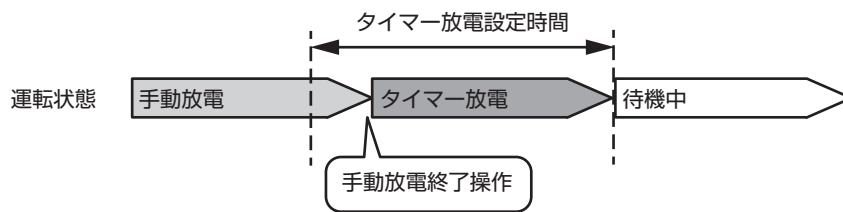
例：手動放電中にタイマー充電やタイマー放電設定時間になった場合
→手動放電を継続します。



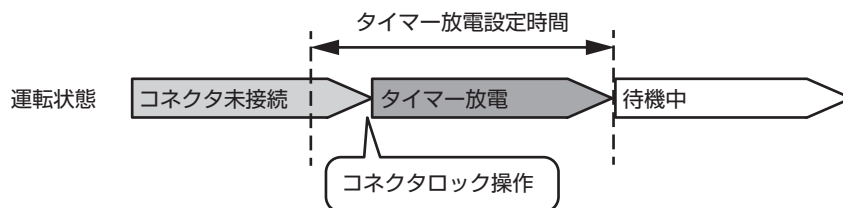
例：タイマー放電設定時間に手動充電を終了させた場合
→タイマー運転を行います。



例：タイマー放電設定時間に手動放電を終了させた場合
→タイマー運転を行います。



例：タイマー放電設定時間にコネクタロックした場合
→タイマー運転を行います。



※一例として記載しています。

グリーンモードとは

車両の電池残量を減らしたくない時（放電（給電）しない）に推奨するモードです。
タイマー設定の時間範囲内で、太陽光発電余剰電力が大きい時、車両に充電を行います。

グリーンモードタイマーを設定する

グリーンモードは家庭側に設置された太陽光発電機器などの発電機器の出力から家庭での消費分を差し引いた余剰電力で車両への充電を行います。

- 発電機器をお持ちでない方は設定しないでください。余剰充電が発生しないため、グリーンモードは行われません。
- 十分な余剰電力が見込める時間帯を設定してください。
- 充電中に余剰電力が発生していれば、グリーンモードでなくても余剰電力は充電に使用されます。
- お出かけなどで確実な充電が必要な場合はタイマー充電を使用してください。
- 余剰電力で充電を行っている間は、グリーンモード LED が点灯します。

停電時に使用する（停電時自立運転）

万一、系統電力が停電になったときには、手動で車両からの放電（停電時自立運転）を行うことができます。

停電時は、手動での停電時自立運転のみが可能です。タイマー運転は開始しません。

停電時自立運転出力は、停電時兼用コンセント、あるいは停電用コンセントのいずれかに出力されます。

停電時兼用コンセント：分電盤等に切替スイッチがある場合のコンセントです。

通常は系統電力が出力されています。停電時には、切替スイッチを切り替え、車両からの放電を行うと、このコンセントに電力が出力されます。

停電用コンセント：切替スイッチは設置されていません。通常時には何も出力されませんが、停電時に車両からの放電を行えば、このコンセントに電力が出力されます。

切替スイッチの有無、コンセントの場所等は、施工店にお尋ねください。

車両への充電中に停電したら

- 手動充電中に停電した場合、充電は停止します。復旧後に再度充電操作を行ってください。
- タイマー充電中に停電した場合、充電は停止します。タイマー設定時間内に EV パワー・ステーションが停電復旧を確定した場合（停電復旧から約 5 分間かかります）、充電を再開します。
- 停電が発生すると宅内も停電します。

車両からの放電中に停電したら

- 手動放電中に停電した場合、放電は停止します。復旧後に再度放電操作を行ってください。
- タイマー放電中に停電した場合、放電は停止します。タイマー設定時間内に EV パワー・ステーションが停電復旧を確定した場合（停電復旧から約 5 分間かかります）、放電を再開します。
- 停電が発生すると宅内も停電します。

待機中に停電したら

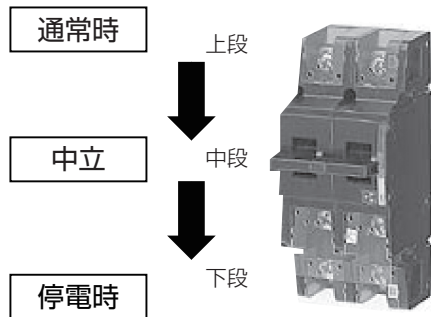
- 停電が発生すると宅内も停電します。
- 手動操作により車両から放電することができます。（次ページ）
- 停電中にタイマー放電開始時刻になっても放電は開始しません。
- 停電中は、手動充電、タイマー充電、どちらもできません。
- コネクタロックは自動的に解除します。

停電時自立運転する前に

- 車両のバッテリー残量が放電停止充電率設定（26 ページ）や車両の推奨するバッテリー容量以下になっている場合は、放電できません。

停電時に放電を開始する

1 〔自立運転用の切替スイッチがある場合〕切替スイッチを切り替える

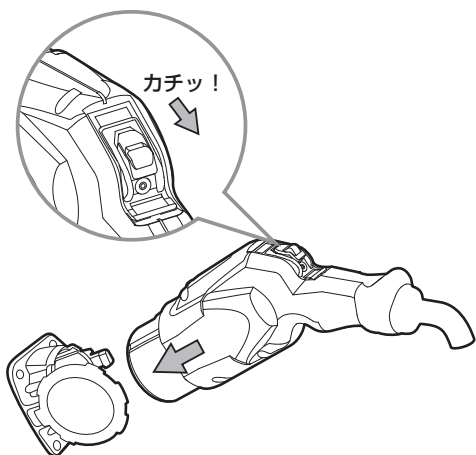


分電盤内に設置してある自立運転用の切替スイッチを切り替えてください。

1回の切り替えでは「中立」となるため、必ず2回切り替えてください。

切替スイッチが無い場合はこの操作は不要です。

2 コネクタを接続する



コネクタを車両充電口の奥まで挿し込みます。「カチッ」と音がするまで挿し込んでください。

メモ

- 車両充電口にコネクタをしっかりと挿し込んで抜けないことを確認してください。
- 車両によっては、下記の手順3、4、6の操作が不要場合があります。車両販売店にお問い合わせください。不要の場合は、手順5のみを行ってください。

3 車両の電源ソケットに 12V 電源ケーブルを接続する

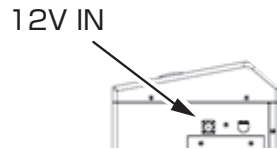
車両の電源ソケットに付属品の 12V 電源ケーブルを接続し、車両のパワースイッチを ACC（アクセサリ）にします。

メモ

- 車両のドアは閉じた状態として、窓から 12V 電源ケーブルを外に出してください。
- 車両のソケットの位置および接続については、車両の取扱説明書を確認してください。

- 車種によってはこの操作が不要なものがあります。詳しくは車両をお買い上げの販売店にお問い合わせください。

4 本体に 12V 電源ケーブルを接続する



本体左側面の 12V IN に 12V 電源ケーブルを接続してください。

ふたは、左に回して手前に引くことで取り外せます。

メモ

使用時以外は常時ふたをつけておいてください。

5 放電を開始する



[放電] ボタンをタッチします。

放電 LED が点滅し、本体と車両の準備が完了した後、放電 LED が点灯し放電を開始します。

メモ

- [放電] ボタンをタッチしてから十数秒後に放電が開始されます。
- [放電] ボタンを押した時すべての LED が 2 回点滅するときは放電できない状態です。

6 車両のパワースイッチを OFF にする

車両から放電状態を確認した段階で、車両のパワースイッチを OFF にします。

12V 電源ケーブルを取り外すことができます。

メモ

- 車両の消費電力が多くなり、車両蓄電池が早く消費されてしまうため、放電確認後、車両のパワースイッチを必ず [OFF] してください。
- 車両によってはパワースイッチを OFF すると自立運転が停止するものがあります。その時はパワースイッチを ACC のままにしてください。詳しくは車両をお買い上げの販売店にお問い合わせください。

停電時に放電を停止する

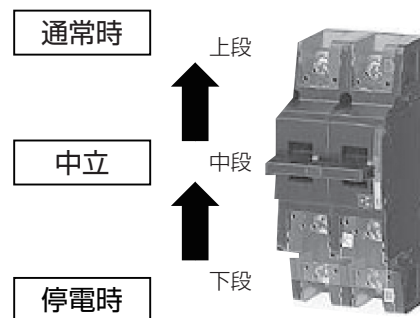
1 コネクタのロックを解除する



[コネクタロック] ボタンをタッチします。

コネクタロック LED が点滅し、ロックが解除されるとコネクタロック LED と停止 LED が消灯します。

2 [自立運転用の切替スイッチがある場合] 切替スイッチを切り替える



分電盤内に設置してある自立運転用の切替スイッチを切り替えてください。

1 回の切り替えでは「中立」となるため、必ず 2 回切り替えてください。

切替スイッチが無い場合はこの操作は不要です。

メモ

- 放電を停止する操作を行った際に停電している場合は、宅内も停電になります。
- 停電から系統が復旧していても放電を停止する操作の際に、宅内が停電します。

停電時に使用する場合の注意事項

災害により停電が発生した場合は、漏電などがなく、電気系統に問題がないことを確認の上「放電操作」を行ってください。



警告

もし漏電や地絡などが発生する可能性がある場合には、火災などのおそれがありますので「放電操作」は行わないでください。

待機中に停電が復旧したら

- 待機中に系統電力の停電が復旧すると、復旧と同時に宅内に系統電力から電力供給されます。

車両から放電中に停電が復旧したら

- 復旧確定（約 5 分間系統通電が継続）後に自動的に放電を停止します。
- 復電後運転継続機能を ON にしていると、停電復旧が確定した場合でも自立運転（放電）を継続します。（26 ページ）その場合、本体の放電 LED と停止 LED が点滅します。
- 復電後運転継続機能を ON にして、停電復旧確定後、切替スイッチを通常状態に切り替える際は、手で本体の停止操作をしたのちに、切り替えてください。

設定する

車両の充電率などシステムに関わる設定を行えます。

本体で設定する

1 運転を停止する



[停止] ボタンをタッチします。
停止 LED が点滅し、停止処理が完了すると停止 LED が点灯します。

メモ
運転中の場合は設定ができませんので、必ず停止状態にしてください。

2 設定画面に切り替える



[メニュー/決定] ボタンをタッチし、表示部に [00] を表示します。

3 パラメーターを変更する



[▲][▼] ボタンで変更したい「設定番号」を表示し [メニュー/決定] ボタンをタッチします。
表示部右側のパラメーターが点滅して [▲][▼] ボタンで変更可能になります。
設定番号とパラメーターについては、25 ページ～26 ページを参照してください。

4 変更を確定する

[▲][▼] ボタンでパラメーターを変更したら、[メニュー/決定] ボタンをタッチして変更を確定します。
変更を破棄したい場合は、[戻る] ボタンをタッチします。
変更または破棄されると、パラメーターの点滅表示が点灯表示に戻ります。

5 設定画面を終了する

[戻る] ボタンをタッチすると、設定画面が終了し表示部が消えます。

メモ
ボタン操作から約 1 分経過すると、自動的に設定画面が終了し表示部が消えます。

タイマー充電設定（設定番号：A、A1、A2）

タイマー充電の ON/OFF 設定、開始時刻、停止時刻を設定します。（18 ページ）

グリーンモード設定（設定番号：b、b1、b2）

グリーンモードの ON/OFF 設定、開始時刻、停止時刻を設定します。（21 ページ）

タイマー放電1設定（設定番号：c、c1、c2）

タイマー放電 1 の ON/OFF 設定、開始時刻、停止時刻を設定します。（18 ページ）

タイマー放電2設定（設定番号：d、d1、d2）

タイマー放電 2 の ON/OFF 設定、開始時刻、停止時刻を設定します。（18 ページ）

充電停止充電率設定（設定番号：01）

手動充電、タイマー充電で、充電を停止する電池残量を設定します。20%から100%まで10%毎に設定が可能です。（初期値100%）

設定値に到達すると充電を停止します。グリーンモードなどで充電する場合も同様です。

メモ

車両によっては設定値に到達する前に充電を停止することがあります。

放電停止充電率設定（設定番号：02）

手動放電、タイマー放電で、放電を停止する電池残量を設定します。10%から90%まで10%毎に設定が可能です。（初期値10%）

設定値に到達すると放電を停止します。

メモ

車両によっては設定値に到達する前に放電を停止することがあります。

本体時刻設定（設定番号：03）

現在の時刻を設定できます。

現在時刻は、長く使用されるとずれることがあります。定期的に修正することをお勧めします。

タイマー運転はここで設定した時刻に基づいて動作します。

PV 余剰充電とは

PVの余剰電力が発生した場合に、売電せずに車両に充電させるモードです。

太陽光発電電力と家庭負荷のバランスで、余剰分は常に車両に充電を行います。

発電の減少や負荷の増大時は、自動的に車両からの放電（給電）に切り替わります。

PV 余剰充電設定（設定番号：04）

放電運転中にPVの余剰電力が発生した場合、余剰電力分を車両に充電する機能です。（初期値OFF）

余剰電力の充電を行っている際は、放電LEDとグリーンモードLEDが点灯します。

余剰電力が車両に充電できる電力を上回った場合は、PV余剰電力を売電します。

復電時放電継続設定（設定番号：05）

停電中に放電運転を行っている際に復電した場合、放電運転を継続する機能です。（初期値OFF）

（自立放電中に系統電力復旧が確定した場合、本体の放電LEDと停止LEDが点滅します）

メモ

- 設定番号：06、07は使用しません。

データを表示する

本体で表示する

充電電力および放電電力と車両充電率（電池残量）を表示します。

※本データは目安として参照ください。

1 運転を行う

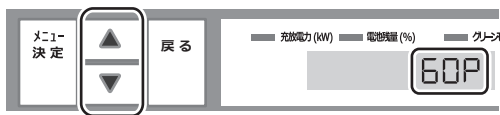
停止中の場合は、[充電] ボタンか [放電] ボタンを押して運転を開始します。（16 ページ）

2 充放電力画面に切り替える



[▲] ボタンか [▼] ボタンをタッチします。
充放電力 LED が点灯し、状態表示画面に充電、放電電力が 0.1kW 単位で表示されます。

3 電池残量画面に切り替える



[▲] ボタンか [▼] ボタンをタッチします。
電池残量 LED が点灯し、表示部に車両電池残量が 10%単位で表示されます。

メモ

ボタン操作から約 1 分経過すると表示が消えます。

その他の操作

電源を入れる

本体専用漏電ブレーカを ON にします。
本体に電源が供給され、充電・放電を行うことができます。

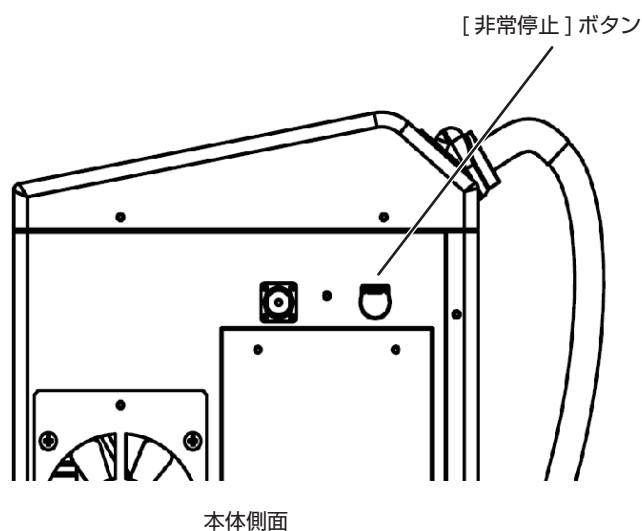
電源を切る

本体の充電・放電動作を停止させた後、コネクタのロックを解除し車両からコネクタが取り外されていることを確認してください。

本体専用漏電ブレーカを OFF にすると本体の電源を切ることができます。
その際、本体操作パネルの表示部にしばらく E29 が表示されますが故障ではありません。(33 ページ)

非常停止する

本体操作パネルで停止ボタンを押しても停止しない場合、非常停止ボタンを用いることで、動作を停止させることができます。
非常停止ボタンを押すと本体操作パネルの表示部に「E11」、「E101」、「E17」、「E100」が表示されて運転できなくなります。
(33 ページ)



非常停止から復帰する

非常停止ボタンを解除する場合は、非常停止ボタンが押されたままの状態になっていますので、再度非常停止ボタンを押し、元の状態に戻してください。

システムリセットする

EV パワー・ステーションの故障情報を初期化するために、システムリセットをすることができます。

1 運転を停止する

充電 LED と放電 LED が両方とも消灯していることを確認します。点灯している場合は停止ボタンを押して運転を停止してください。

2 設定番号「00」を表示させる

メニュー / 決定ボタンを押して、数値表示部の設定番号を「00」にします。

3 停止ボタンを長押しした状態で、戻るボタンを押す

最初に停止ボタンを長押しした状態で、戻るボタンをリセット完了するまで同時長押ししてください。(目安5~8秒)

リセット完了すると、設定番号「00」の表示が消えます。その後システム準備のため、約5分間は運転できません。

車種ごとの注意事項

日産自動車（株）LEAF, e-NV200

- 車両による電池状態確認のため、1日に10分以上運転を行わない時間を設けてください。
- EV-IT機能を使用すると、日産EVは放電対応車両であっても本機は放電非対応車と認識するおそれがあります。そのため、本機を接続している間はEV-IT機能を使用しないでください。

三菱自動車工業（株）i-MiEV, minicab-MiEV, minicab-MiEV Track, アウトランダー PHEV

- 車両による電池状態確認のため、2週間に1回程度、普通充電による満充電を行ってください。
- MiEVリモート、三菱リモートコントロールのタイマー充電機能およびプレ空調機能は普通充電中のみを使用できる機能であるため、本機での充放電中は使用することができません。

こんなときは

コネクタがロックできない

- 車両の状態によってはコネクタロックができないことがあります。以下の項目を確認してください。
 - 車両はパーキング状態で、メーターパネルが消えた状態（POWER OFF）になっていること。
 - 普通充電コネクタが接続されていないこと。
- 冬季には凍結により、充放電コネクタのロック機構が動作しないことがあります。その場合はぬるま湯をかける、もしくは、ドライヤーの風を当てて解凍してください。付着した水分は乾いた布などで拭き取ってください。

運転しない / できない

ボタンを押しても反応が無い

以下の項目を確認してください。

- 操作パネルで設定を行っている。（設定番号が表示されている）：
 - 戻るキーを押して表示部の表示が無くなってから操作してください。
- 停電中：
 - コネクタを挿した状態でボタンを押しても光らない場合は 12V 電源ケーブルを接続してください。

ボタンを押すとすべての LED が 2 回短く点滅する

押されたボタンによる操作が受付できないときに点滅します。以下の項目を確認してください。

- 運転開始中および運転終了中：
 - しばらく待ってから操作してください。
- 本体が停電復旧確定待ち：
 - 電力系統が停電から復旧した後は、EV パワー・ステーションが停電復旧を確定するまで（約 5 分間）、運転はできません。
- 本体がシステム準備中：
 - 本体電源（本体専用漏電ブレーカ）を入れた後 EV パワー・ステーションが準備を終了するまで（約 5 分間）運転はできません。システムリセット後もシステム準備を行いますので約 5 分間は運転できません。
- エラー中：
 - 操作パネル表示部に「E XXX」の表示がある場合は運転できません。（33 ページ）

運転開始するがすぐに停止する

以下の項目を確認してください。

- エラー表示がある：
 - 表示部に「E XXX」の表示がある場合は運転できません。（33 ページ）
 - エラー表示が無い：
 - 放電非対応車から放電している。
 - 放電は放電対応車で行ってください。
 - 車両の電池残量が多すぎる / 少なすぎる。
 - 充電停止電池残量、放電停止電池残量を適正に調整してください。
 - 充放電を行って車両の電池残量を適正に調整してください。
 - 車両側から運転を停止している。
- 詳しくは車両の取扱説明書をご確認ください。以下に一例を記します。
- POWER が OFF になっていない。
 - シフトノブがパーキングになっていない。
 - 車両の電池残量が高すぎる / 低すぎる。
 - 普通充電コネクタが接続されている。

しばらくすると停止している

停電や瞬停が検出された場合、運転を停止します。タイマー運転の場合、停電等から停電復旧確定（復旧から約 5 分経過）した後タイマー時間範囲内であれば運転を再開するので、夜間の充電などはタイマー運転をご使用ください。

充電電力が少ない

以下の理由で充電電力が少なくなることがあります。

- 家庭消費電力が増えると、ご家庭のブレーカ容量を超えないように充電電流を制限する制御（インテリジェント充電制御）が働いて充電電力が減少します。
- 放電非対応車両の場合、家庭消費電力が少ないときには放電対応車より充電電力を低めに制御しています。
- 車両の電池残量（充電率）が高かったり低かったりした場合、充電電力が少なくなることがあります。
- グリーンモードで充電を行う場合、充電電力は PV の発電量によって少なくなることがあります。
- 本体に日射がある場合や吸排気口がふさがれるなどして本体内部温度が上昇した場合、保護の為充電電力が少なくなることがあります。
- 吸排気口がふさがれている場合は、外側から掃除機を利用するなどして、ごみを取り除いてください。

放電電力が少ない

以下の項目を確認してください。

- 本機は売電を行いません。家庭消費電力を上限として放電するため、家庭消費電力が少ない場合は放電電力が少なくなります。
- PV を併設されている場合は、PV の発電電力の分本機の放電電力が少なくなります。
- 本体に日射がある場合や吸排気口がふさがれるなどして本体内部温度が上昇した場合、保護の為放電電力が少なくなることがあります。

放電中に充電する

PV 余剰電力充電機能が ON になっている場合、充電を行うことがあります。（26 ページ）

グリーンモードで電池残量が増えない / 減る

PV の発電量が安定していない場合、グリーンモードで電池残量が増えなかったり、減ったりすることがあります。グリーン充電では、家庭側に設置された発電機器の出力から家庭での消費分を差し引いた残りの余剰電力で車両への充電を行います。余剰電力が十分にあるときに充電動作を開始しますが、充電動作を開始した後に余剰電力が減少すると充電を停止します。そのため、余剰電力が安定して発生する状態でなければ電池残量は増えません。また、グリーンモードでの充電開始 / 停止が一定回数を超えるとグリーンモードの運転を終了します。

余剰電力の発生に増減が生じ充電の開始停止を繰り返したり、充電を行っているものの余剰電力が低い場合は車両によっては車両の補機類（電池システムや通信システムなど）の消費電力によって逆に電池残量が減ったりする可能性があります。

ブレーカが頻繁に落ちる

- お買い上げの販売店へ点検をご依頼ください。

契約電力を変更する場合

- ブレーカの容量を変更する場合には、V2H の設定の変更が必要になりますので、お買い上げの販売会社にご相談ください。

100%まで充電できない

- 車両によっては充電停止充電率設定を100%に設定しても、充電率（電池残量）が100%に到達する前に充電を停止することがあります。
- 充電時間帯に他の家電製品（電気温水器、床暖房など）を多く使っている場合、電力契約によっては、充電できる電力が不足する場合があります。その場合は、電力契約の見直しなど、お買い上げの販売会社にご相談ください。
- 充電時間が短い場合、充電停止充電率設定まで充電できない場合があります。
- 充電停止充電率設定を低く設定している場合があります。「設定する」の「充電停止充電率設定」を確認してください。（26 ページ）

車両が満充電後、すぐに放電できない

- 車両によっては、満充電後すぐには放電できない場合があります。

充放電コネクタが取り外せなくなった場合

- 再度、[コネクタロック] ボタンをタッチしてください。
- 一度充電あるいは放電を実施してください。実施後、再度[コネクタロック] ボタンをタッチしてください。

<冬季の凍結について>

- 冬季には凍結により、充放電コネクタが抜けなくなることがあります。その場合は無理に抜こうとせず、充電・放電を停止し、ぬるま湯をかける、もしくは、ドライヤーの風を当てて解凍してください。付着した水分は乾いた布などで拭き取ってください。

<緊急離脱について>

緊急の場合は、付属の「充放電コネクタ緊急離脱工具」を使用して充放電コネクタを取り外すことができます。

- 緊急離脱を行った場合は、充放電コネクタは利用できなくなるため、必ずお買い上げの販売会社にご連絡ください。
- 保証期間中であっても、不具合以外の要因で緊急離脱を行った場合のサービス対応費用はお客様負担となります。

※充放電コネクタ緊急離脱工具の入った袋に取扱説明書が同封されています。

※「開封前に必ずお読みください」として下記を明示しております。開封された場合下記内容に同意されたものとみなします。

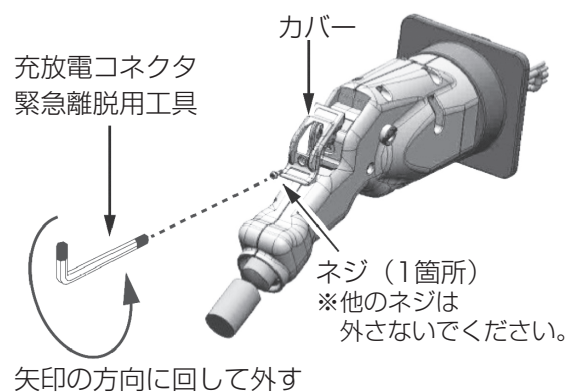
- 緊急離脱を行った充放電コネクタは使用できなくなります。
- 緊急離脱を行った場合は弊社による点検と内部スイッチ機能の回復が必要となります。
- 本書の「安全のために必ずお守りください」を作業前に必ずお読みください。
- 本書の記載内容を熟読し、手順に従って作業を行ってください。

<緊急離脱の手順>

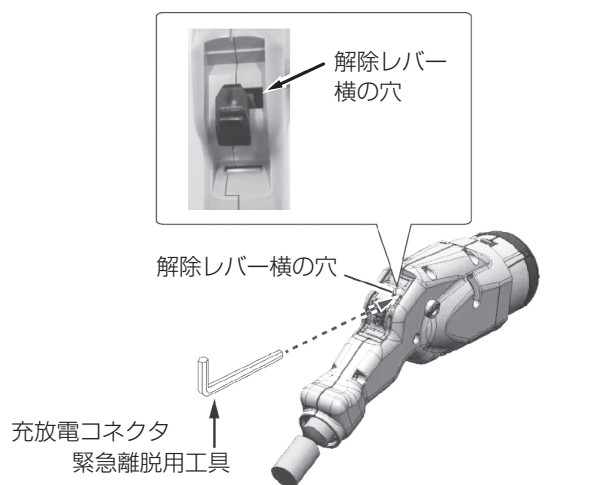
作業前に以下を確認してください。

- 充放電が停止していること。
- 操作パネルのLEDランプがすべて消灯していること。
- 12V電源ケーブルが接続されていないこと。

1 充放電コネクタ緊急離脱工具を使用してグリップのネジを外し、カバーを外す

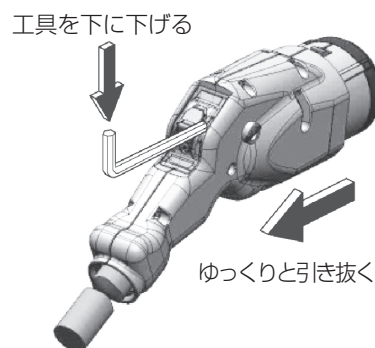


2 カバーを外した後、解除レバーの横の穴に充放電コネクタ緊急離脱工具を挿し込む



奥まで挿し込まないと取り出しができない場合があります。

3 充放電コネクタ緊急離脱工具を下しながら充放電コネクタをゆっくりと充電口から引き抜く



本工具を使用した場合は、充放電コネクタは利用できません。取り外し完了後は必ず販売会社にご連絡ください。

エラーコードが表示された

エラーコードが表示されたときは、次の表に従って処置してください。それでも回復しない場合は本製品の故障が考えられます。お客様相談室に連絡していただく際には、画面に表示されるエラーコードをご連絡ください。

エラーコードの内容と処置

エラーコード	処置
E1 ~ E6, E43, E92 ~ E99, E103	ご使用を中止してお買い上げの販売店にご連絡ください。
E11, E101	非常停止ボタンを押し戻してください。
E7, E12, E23 ~ E25, E28, E29, E33 ~ E35, E65, E66, E82 ~ E87, E108, E109, E114 ~ E117, E120 ~ E122, E129 ~ E182, E202	システムリセット (28 ページ) を行ってください。繰り返し発生する場合はお買い上げの販売店にご連絡ください。
E18 ~ E22	雪やゴミなどで吸排気口が塞がっていないかご確認ください。
E10, E13, E14, E15, E17, E26, E27, E51 ~ E64, E69 ~ E81, E88 ~ E91, E100, E102, E104 ~ E107, E110 ~ E113, E118, E119, E123 ~ E128, E188 ~ E197	復帰しない場合はシステムリセット (28 ページ) を行ってください。繰り返し発生する場合はお買い上げの販売店にご連絡ください。

保証とアフターサービス

保証について

保障内容については保証書に記載しています。
保証書はサービスの際に必要なになりますので、大切に保管してください。

アフターサービスについて

- ご不明な点や修理に関するご相談
ご不明な点や修理に関するご相談は、お客様相談室にお問い合わせください。
製品以外の、工事等に関するお問い合わせは販売店にご連絡ください。
- お客様相談室にお問い合わせされるとき
次のことをお知らせください。
製品以外の、工事等に関するお問い合わせは販売店にご連絡ください。
 - ・ 装置の型式と製造番号（Serial No.）
※保証書添付のラベル、もしくは本体排気口上部添付のラベルをご確認ください。
 - ・ 設置工事完了日
※保証書をご確認ください。
 - ・ 故障の場合、故障の状況（エラーメッセージ番号、故障発生時の運転状況、発生日時と天候など）

製品に関するお問い合わせ

- 本製品の仕様に関するお問い合わせやご相談は下記窓口にご連絡ください。
ニチコン株式会社 お客様相談室
Tel. 0120-215-023（フリーダイヤル）
受付時間 9:00～17:00 月曜日～金曜日（祝日・弊社休業日を除く）

機器仕様

本体仕様

サイズ	W 809 × H 855 × D 337	
本体質量 ^{※1}	88kg (VCG-663CN3)、91kg (VCG-663CN7)	
ケーブル ^{※1}	3.7m (VCG-663CN3)、7.5m (VCG-663CN7)	
充電部 (系統連系時)	電気方式	単相 3 線式
	定格電圧	AC202V
	定格周波数	50 または 60Hz
	出力電力 ^{※2}	6kW 未満
放電部 (家庭への給電) (系統連系時)	電気方式	単相 3 線式
	定格電圧	AC202V
	定格周波数	50 または 60Hz
	AC 出力電力 ^{※3}	6kW 未満
放電部 (家庭への給電) (自立出力時)	電気方式	単相
	定格電圧	AC101V
	定格周波数	50 または 60Hz
	AC 出力電力	3kVA 未満
EV 側電圧範囲	DC150 ~ 450V	
不要輻射 ^{※4}	VCCI class B 準拠	
IP 等級	IP46 (換気口は除く)	
設置環境 ^{※5}	設置条件	屋外、標高 2000m 以下
		-20℃ ~ 50℃
	動作温度	-20℃ ~ 40℃
周囲湿度	30% ~ 90% (結露なきこと)	
冷却方式 ^{※6}	強制空冷方式	
運転時騒音 ^{※7}	40dB-A	
表示 ^{※8}	7 セグメント表示器	

※1 規格値ですので、実測値と異なる場合があります。

※2 機器の入力値であり、実際の充電出力を保証している数値ではありません。契約電力や家庭での電力使用状況および車両の充電率によって異なります。

※3 車両の状況により電力が低下する場合があります。

※4 受信障害となる場合がありますので、ラジオ、テレビ、アマチュア無線等の電波を利用する機器とは 3m 以上離して設置してください。

※5 岩礁隣接地域、塩害地域、離島では使用できません。温泉等の腐食性ガスのある環境では、機器の動作に影響を及ぼす可能性があります。事前にご確認ください。

※6 動作中は、本体内蔵ファンの動作音が発生します。壁との距離など、設置環境により、音の間こえ方が異なることがあります。本体の内部温度が高くなると、本体の排気ファンが高速になり、作動音が大きくなる場合があります。また、高温時出力を制限する場合があります。

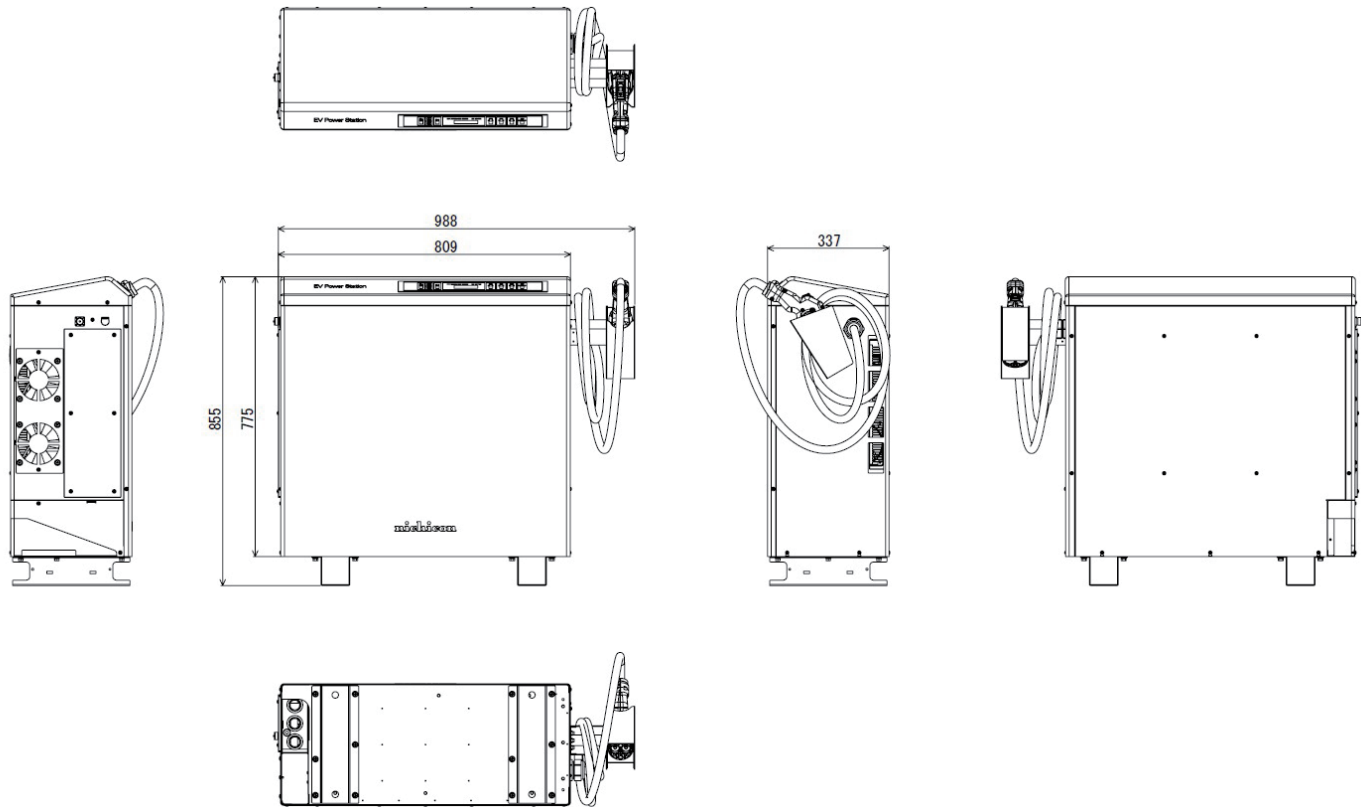
※7 JIS C1509-1 で規定する A 特性サウンドレベルを示します。製品正面中央から 1m、高さ 1m の距離での測定値です。

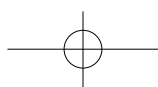
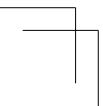
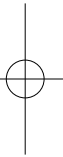
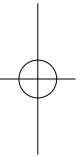
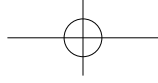
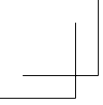
※8 操作状況やデータを表示

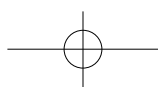
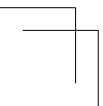
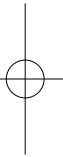
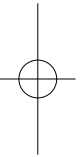
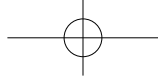
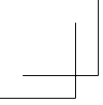
機器外観図

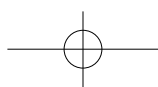
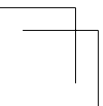
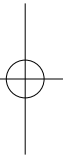
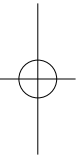
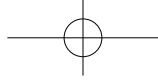
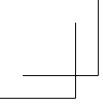
(数値単位は mm、ただし参考値)

本体









nichicon

京都市中京区烏丸通御池上る 〒604-0845

<http://www.nichicon.co.jp>

TP1950SMNL01003